

第1回 栃木県立益子芳星高等学校 学校運営協議会 報告

開催日時 令和5年6月22日(木) 13:30~15:30

開催場所 本校会議室

出席委員 大塚 昌哉 佐久間藤也 小倉 美保 加藤 義勝
池田 範夫 篠原 泰三 佐藤 広志 宇都木修一

1 開会

2 学校長挨拶

生徒の様子については、3年生は7/3からの求人開始にむけて本気モードになってきた。2年生はインターンシップに向けて真剣に準備に取り組んでいる。1年生は落ちついて良い雰囲気の中、学習や部活に取り組んでいる。本校の魅力化・特色化に向けて忌憚のないご意見を願います。

3 栃木県教育委員会挨拶

近年生徒を取り巻く環境は複雑化しており、地域との連携が不可欠である。育てたい生徒像のビジョンを地域と保護者と協働して支えていく。日光名峰・馬頭高校から始まり H31 から益子芳星でもこの学校運営協議会が始まった。未来を創る高校生地域連携・協働推進事業が3年目になり生徒の活躍がたくさん耳に入っている。地域と一体となって取り組んでほしい。

4 出席者紹介

1名欠席

5 確認及び承認

- (1) 会則の確認 資料1、2のとおり。
- (2) 委員の確認 資料3のとおり。
- (3) 会長・副会長の選出、承認、挨拶

6 報告事項

- (1) 令和4年度活動状況報告 資料4のとおり

第2回はコロナのため中止

- (2) 本校の現状と課題について 資料5

○本校生徒の状況

436名在籍。1年生が定員割れ。2年生が男女比5:5だが1年生と3年生は男子4:女子6。益子町内以外では芳賀や市貝の生徒も多い。減少してしまった市町もあるため、積極的にPRして挽回したい。部活の加入率にも危機感を持っている。R1までは1年生が強制加入だったがR2より自由になった。年々減少していくことへの対策として、R4年度から1年生に複数の部活を体験させる取組をし、若干加入率が上がったが、さらなる対策を立てないといけない。

○進路状況

大学進学は例年どおり。指定校推薦を使って入学している。就職が好調で大手に入社できている。ここ2年ほど市役所や町役場などに就職できているのは公務員講座を実施している効果。昨年度の就職70名というのは127名の中の70名なので55%。以前は進学者が半分以上だったが、4年度から就職者の方が多くなった。就職に強い普通科高校は珍しい。専門学校への進学者が減少。今まで専門学校に行っていた生徒が就職に流れている。製造業が人手不足で今年もたくさんの求人が予想される。インターンシップで製造業をできるだけ体験してもらってミスマッチのない就職を目指していきたい。

○本校の特色

① 進路実現のための多彩なコース制

生徒のニーズに合わせて5→4→6とコースの数を変更してきた。今後も実情に合わせていきたい。カラーパンフレットのスクールガイドは写真のカラーを薄めにして印象をさわやかにする工夫をしている。

② 将来に役立つライセンス教育 資格取得の奨励

他校でここまで検定に力を入れている普通科はない。

③ 地域とのつながりを大切にする地域活動・社会貢献活動の充実

2年1組がましこ未来大学において町の課題解決への取組をしている。

○今年度の新たな取組

昨年度まで2クラスであったが、今年度より3クラスの生徒がインターンシップに参加することになった。ミスマッチな就職を減らしていきたい。

○本校の課題

入学者確保のための特色化の充実。どうアピールしていくかが最大の課題である。中学生の数が減ってきている中、人を集める工夫を考える。

7 協議

(1) 令和5年度学校運営方針について

今年度は変更なし。重点目標は毎年少しずつずらしている。今後スクールミッション・スクールポリシーを策定する予定。それにリンクした形で作りかえていく。目指す生徒像をグラデュエーションポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）として反映させていく。そのために目指す教職員像があるが、教員に過度な負担をかけないように考えていかな

ければならない。

運営方針について、承認された。

(2) 益子陶器市ボランティア再開について

【篠原委員、佐久間委員より説明】

益子塾とは仲山商事の会長が始めたもの。中山商事は植木鉢の販売業者だったが、カタログギフトシステムの先駆者となり発展した。その仲山会長が社会貢献として地域に何かできないか、次世代に自分たちの経験を伝えたいと思って始めた活動が益子塾。前町長などメンバー10人くらいでスタートした。

最初は陶器市のボランティアといってもピンとこなかったもので、ゴミ拾いから始めた。観光客の困っていることを助ければいいのではということになり、手荷物を持っている人が多く不便そうなので手荷物預かり所を設けることにした。その他、観光案内をするなどして2005年秋の陶器市からスタートさせた。村尾さんというアメリカで起業して成功した人にコンサルタントとしてアドバイスをもらった。携帯用灰皿を作ってその収益を資金源などにした。2012年に益子芳星高校の宇梶校長が生徒をボランティア活動に派遣してくれてそれが今につながっている。今回は募金活動で36万円集めてもらった。生徒の力の大きさを感じている。生徒はやらされているのではなく、イキイキとして活動してくれている。

警察が益子町のお祭りはきれいだと褒めてくれている。きれいな環境がポイ捨ての抑止力になっている。協力してくれている金融機関・商工会等に益子芳星の名前と生徒が認められている。

【今年度の活動について学校から説明】

陶器市ボランティアは3年ぶりの募集に延べ100人、1日あたり38名の生徒が参加。生徒のアンケート結果を見ると参加してよかった、ありがとうと言われて嬉しかった、秋も参加したい、などの回答があった。

陶器市以外の活動としてオヤケコフنزのイベントに企画の段階から関わった。益子町＋無印良品＋地域＋高校生の力を結集して開催された。地域の人が10年をかけて整備した桜と菜の花と古墳の風景を楽しむオヤケコフنز。イベントのためのベンチを考えて町の人と一緒に制作し、当日運営や販売の手伝いをした。学校では無口で控えめな生徒が1日も休まずに熱心に参加しているのが印象的だった。

(3) 益子芳星高等学校の魅力化、特色化に関する意見交換

- 自分たちの世代は家にいてもすることがなくて、学校に行くのが本当に楽しかった。除草作業など辛いこともあったがそれもいい思い出。1期生は益子中学校から60名進学したので中学校の延長のような楽しさがあ

た。学校の楽しさを魅力に変えていってほしい。魅力＝楽しさ、楽しさ＝魅力で。

- 男子4人の子供がいて上から3人まで益子芳星。上から二人はすでに卒業済み。現在3番目の子が在学中。楽しく通っている。息子の友人なども含めて子供たちの話を聞くと勉強が好きではない、学業で認められたことがない等の内容である。資格をたくさん取得できるのは武器になるが、それだけではなくやればできる感を身に着けていってほしい。次男（卒業済）は茂木高校と迷って益子芳星を選んだ。英検や漢検を頑張って取得した。大勢の中で埋もれる子だったのに、自分の進む方向をみつけて進んでいくことができた。周りにボランティアを楽しんでいる子や運動部と文化部の両方に所属して頑張っている子などたくさんいた。自信をもって自分の将来のために本人らしさを伸ばしていってほしい。

- スクールガイドの冊子について、2つに分けて出すのは珍しいタイプ。最近を読むより見させるパンフが多い。昔は写真などのコントラストを強くしたほうが良いとされたが、最近は明るくハイライトをあげる傾向である。

茂木町は町をあげて教育をやっている。学校に塾を作っている。芳賀郡で一番人口減少に危機感を持っている。茂木は真岡鉄道の終着駅で茂木の子供たちは、地元・益子・真岡（市内）と選択の幅が狭い。

- 茂木の子供たちの現状は真岡高校・真岡女子高校を目指す子は応援する。真岡・真岡女子で挫ける可能性があるなら茂木高校で頑張ろうという認識。茂木高校に学力が満たない子は益子芳星。私立は負担（時間・金銭）が多い。益子芳星には入学してからその良さを実感できた。もっとその良さを強みとしてPRしてみてもどうか。茂木町の公営塾は保護者にまめに連絡が来るので預けやすい。
- 茂木町はラーメン屋募集の件もそうだが、色々なPRが熱心で上手。危機感強いからでは。
- 益子芳星の近所に住んでいるので、創立以来の流れをずっと見てきている。当初は国立大合格もあった。芳賀高校と合併し益子芳星のらしさがでてきた。茂木町は地元の高校に対する愛情があってみんなで一体化している。切羽詰まったギリギリの思いが町民も学校も一緒。益子町の良さはやはり地域との連携。自治会のフェスティバルなどたくさん協力してもらっている。ボランティアを嫌々やっている生徒はいない。目的意識をもって頑張れば生徒の良さがどんどん出てくる。
- これまで中学生が高校を選ぶ時のキーワードは進学実績だった。それが変わってきている。

どこの町も地元に残る人材がいなくなっている。「地域の間育てます」という高校があってもよいのではないか。例えば茂木町の子が益子芳星高校で学び、茂木町に貢献できる人材になる。茂木町のラーメン屋誘致は若い滝田君という人のアイデア。そのような柔軟なアイデアを持って地元で貢献できる人間の育成に期待したい。

- オヤケコフズで活躍した近藤美晴さんは七井幼稚園の卒園生。イベントでエコバックの販売を手伝っていたので購入した。高校生は勉強が真ん中にあるのは当然だが、その中で自分が本当に好きなものは何、社会の中でどうやって生きていくのか模索して欲しい。

夏休みにたくさんの高校生ボランティアが来てくれるのが楽しみ。園児たちは大きいお兄さん、お姉さんが大好き。大きいだけで園児たちにはかっこよく見える。憧れる。この交流が高校生の自尊心につながってくる。真岡高校や茂木高校からは吹奏楽の演奏会の案内が届く。益子芳星はどうか。

- 昨年度11月に実施する予定だったが、コロナで12月に延期になった。今年度は1月を予定している。コロナ禍ということでまずは部員の家族や関係者のみ招待している。顧問が頑張っているので今後規模を拡大し、近隣の小中学校や幼稚園などにも聴きにきてもらいたい。
- 吹奏楽の演奏会を楽しみにしている。茂木高校は高校再編の中で頑張っている。益子町も頑張りたい。町内における高校の存在の認識、茂木町と益子町では温度差があるのではないか。

高校は再編や統合ではなく残る道を探してほしい。生徒の人数だけで数合わせしてよいものか検討を。別な目的の存在価値がある。栃木県の未来に向けて何を削り、何を残していくのか。地域の財産を大切にしたい。

- 高校生にとって幼稚園実習などが社会に向けてのステップになっている。高校再編の大まかな計画が出てすごく関心がある。

陶器市のボランティアが再開して今後が楽しみである。今回はたくさんの重要なキーワードがあった。高校では出来ること出来ないことがあるが、茂木に負けない「おらが町のおらの高校」を続けていこう。

8 その他

第2回は10月に実施予定。